

三軸試験装置の改良など

土質屋北陸 新たな受注確保へ

「水華」導入で堤体健全性も



市山勉理事長

協同組合土質屋北陸

(金沢市、市山勉理事

長)は、これまでの三軸試験装置を一部改良し、「不飽和土の三軸試験」および、「ベンダーエレメント試験」

に対応できるようになった。いずれも北陸3県では初めてで、今後、新たな受注機会の確保につながるものと期待される。

近年、保水性に関する試験技術が進歩し、不飽和土の特性把握と設計に活用する動きが活発化。不飽和土の特性把握において強度特

リング試料の乱れの影響を評価する手段としても用いられ、三軸試験や繰り返し試験とセットで行われる傾向が強

「AUTO LITZ」

も導入した。圧力源にポンプを用いることで制御しやすく、全自動で測定データの品質が向上。従来のガスボンベや耐圧タンクを用い

このほか、老朽た



新装置導入の説明などが行われた事業推進委員会の交流会。今月1日

性は重要な項目で、需要が高まると予想される。ベンダーエレメント試験は2014年に制定された試験方法で、微小ひずみ領域における土のせん断係数Gを求め、非破壊試験。サンプル

長崎・出島表門橋を訪問 インフラツーリズム痛感



昨年6月に金沢21世紀美術館で長崎・出島表門橋ドキュメント

催し、12月に市山理事長らが出島を訪れた写真。

「ふたたび海を渡る橋 BRIDGE」の上

住民の思いをいたわるような復元ストーリー

池堤体の健全性調査や河川堤防の点検に適した原位置透水試験装置「水華(スイカ)」も導入。原位置において地下水位より上の地盤で試験を実施し、透水係数を求めることができる装置で、狙った箇所での試験を行い、改修の必要性を判断し、健全度調査や防災のための点検業務に有効利用できる」としている。

を肌で感じたようで、参加した森川和車専務理事は「単なる観光名所の復元ではなく、オランダからも要請があったことに感銘を受けた」と話す。現地に多くの修学旅行生が訪れていた様子から、「土木事業の大切さをインフラツーリズムを通じて中学生ぐらいから関心を持ってもらえれば、建設産業を将来の仕事の選択肢にしてもらえる可能性もあるのでは」と(同)と期待を寄せた。